

映像作品編集の基礎知識

ローランド・ミュージック・スクール
ROLAND MUSIC SCHOOL

STEP - 01 素材を集めて取り込もう！

■どんな素材が使えるの？

外の風景や、発表会の演奏を記録した動画／静止画等を集めてみましょう。オリジナルの音源や録音された音源等もあればさらに便利です。

現在、パソコンで扱える動画・静止画ファイルには、多くの規格が存在します。通常のビデオカメラやデジタルカメラで撮影された動画・静止画素材や、音楽 CD、メモリーレコーダーで録音された音楽素材は一般的な動画編集ソフトに簡単に取りこんで、編集することができます。

例)

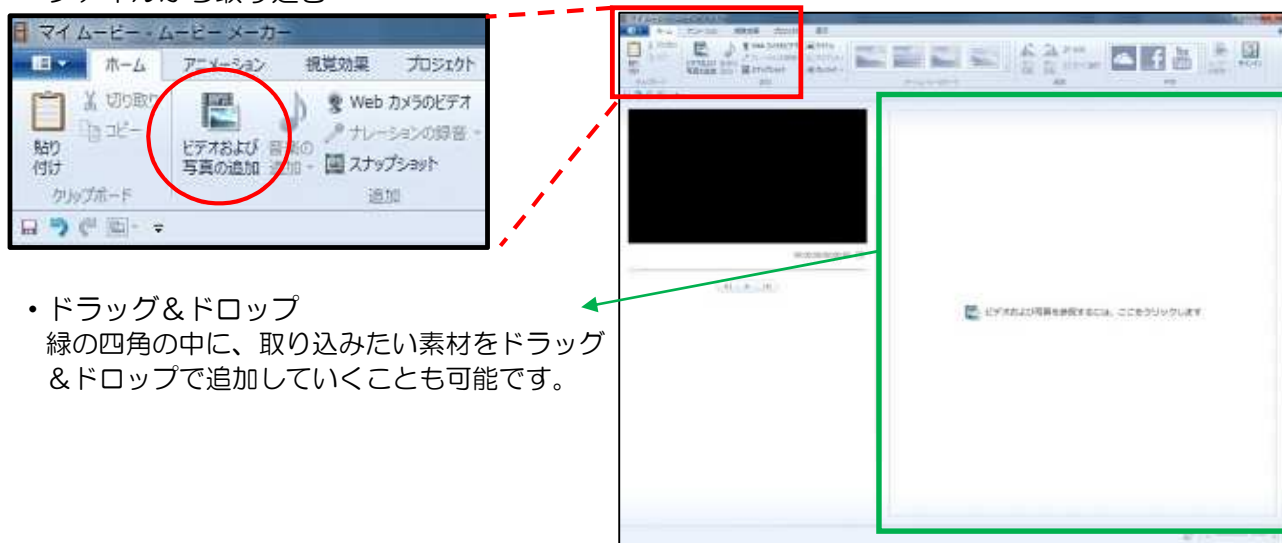
- ①HDD、メモリー記録方式のビデオカメラで撮影した動画ファイル
AVCHD（エーブイシーエイチディ）と呼ばれる規格で記録されており、記録メディアを通して取りこみます。
- ②デジタルカメラで撮影した動画ファイル
AVCHD や MotionJPEG（モーションJPEG）と呼ばれる規格で記録されています。①同様、記録メディアを通して取り込みます。
- ③デジタルカメラで撮影した静止画ファイル
JPEG（JPEG）や BMP（ビットマップ）と呼ばれる規格で記録されています。①、②同様、記録メディアを通して取りこみます。
- ④その他（音源ファイル）
WAV、MP3 といったファイルも取り込むことができます。

※取り込むことができるファイル形式は、ソフトによって異なります。お使いのソフトで取り込むことができるファイル形式を確認しておきましょう。

■映像素材を取り込んでみよう！

「取り込み」「インポート」「追加」など、呼び方の違いはあっても素材の取り込み方法はどの編集ソフトでも共通です。ファイルから取り込むこともできますし、ソフトによっては編集エリアにドラッグ&ドロップするだけで、素材を取り込むことができます。ここでは Windows ムービーメーカー12 を使って素材を取り込んでみましょう。

- ・ファイルから取り込む



- ・ドラッグ&ドロップ
緑の四角の中に、取り込みたい素材をドラッグ&ドロップで追加していくことも可能です。

■動画素材の編集

動画素材の音量調節、素材の分割や、再生位置の設定など、簡単な編集が可能です。

メニューバーの「編集」または、その上に表示される「ビデオツール」をクリックして、編集にチャレンジしてみましょう。

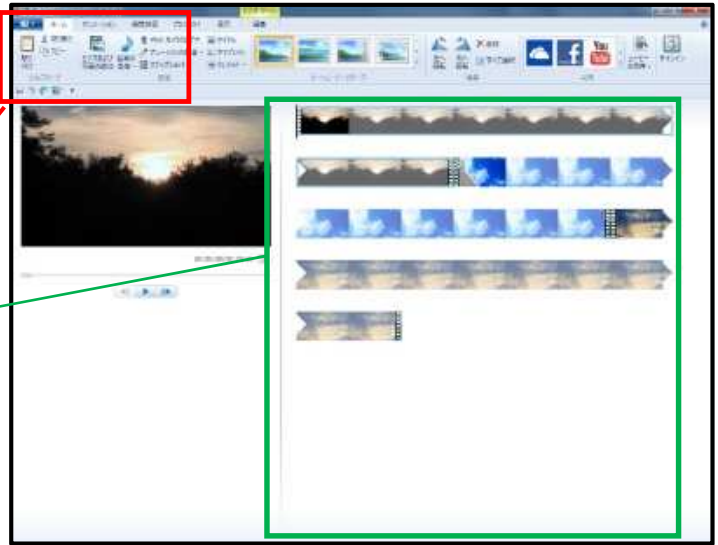


STEP - 01 素材を集めて取り込もう！

■音楽素材を取り込んでみよう！

映像の取り込方法と同様、ファイルから取り込む方法と、ドラッグ&ドロップで取り込む方法があります。

- ファイルから取り込む



- ドラッグ&ドロップ

緑の四角の中に、取り込みたい素材をドラッグ&ドロップで追加していくことも可能です。

■音楽素材の編集

音楽素材の音量調節、ファイルの分割や、再生位置の設定など、簡単な編集が可能です。

メニューバーの「オプション」または、その上に表示される「音楽ツール」をクリックして、編集にチャレンジしてみましょう。

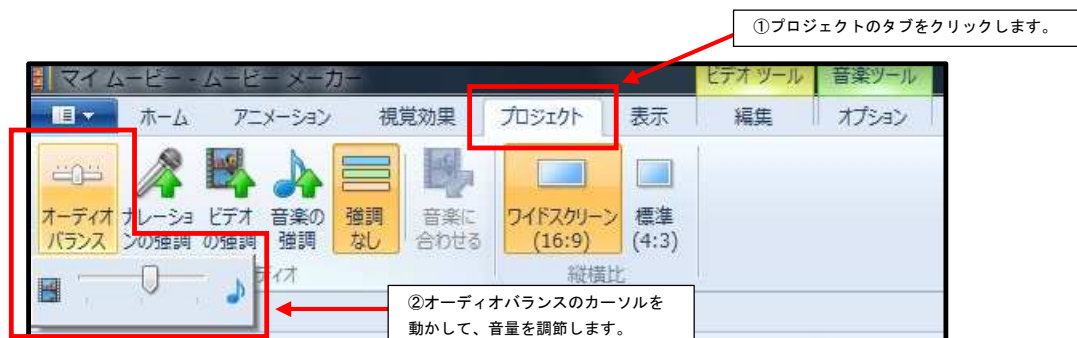


【一言メモ】

映像ファイルに音声が入っている場合、取り込んだ音楽ファイルとの音量バランスに注意しましょう。
例) 結婚式用のメッセージ動画に音楽を加える場合など。

- ①メニューバーの「プロジェクト」を選択します。

- ②「オーディオバランス」をクリックし、『映像の音声』と『音楽ファイル』の音量を調整します。
※左にカーソルを動かすと映像の音声が大きくなり、右に動かすと音楽ファイルが大きくなります。



STEP - 02 映像の切り替え効果を使ってみよう！

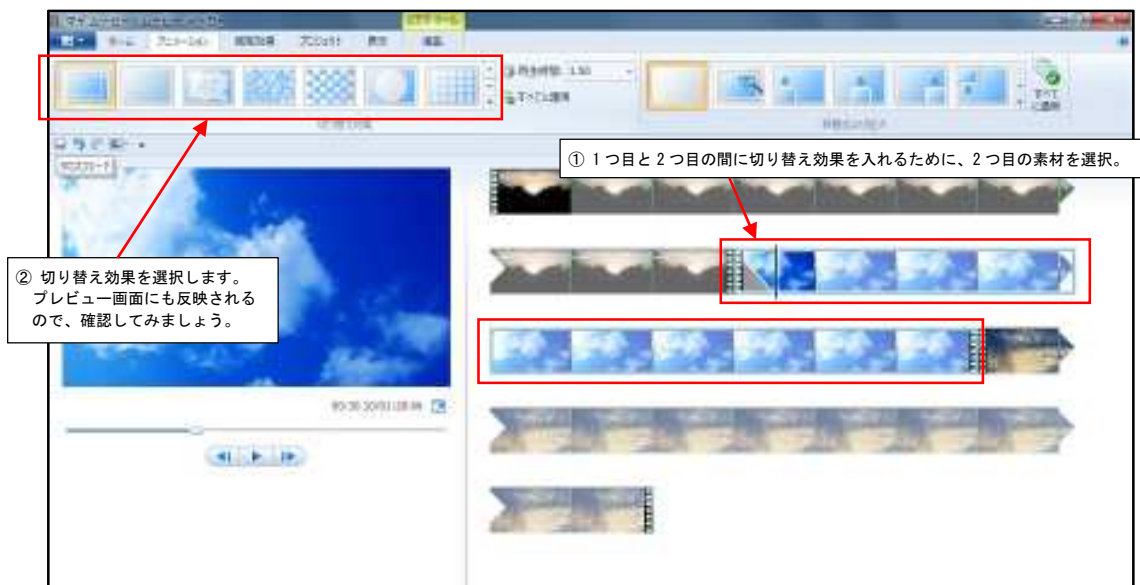
■切り替え効果とは？

テレビの放送や、WEBでの映像作品を見ていると、場面と場面の切り替えに、様々な効果が使われていることに気づきます。画面が連続的に切り替わったり、横から入ってきたりといった効果は、一般的に「切り替え効果」と呼ばれ、作品について様々な変化を表現することができます。ここでは、効果の使い方をご紹介します。

■切り替え効果を使ってみよう！

STEP - 01 で作成したファイルに、切り替え効果を差し込みます。

- ①切り替え効果を差し込みたい素材をクリックします。下の例では、1つ目の素材と2目の素材の間に切り替え効果を差し込むために、2つ目の素材を選択しました。
- ②画面左上のメニュータブを『アニメーション』にして、切り替え効果一覧より、好みの効果を選択して効果を差し込みます。
再生時間を変更して、切り替えを早くしたり、ゆっくりしたりすることもできます。



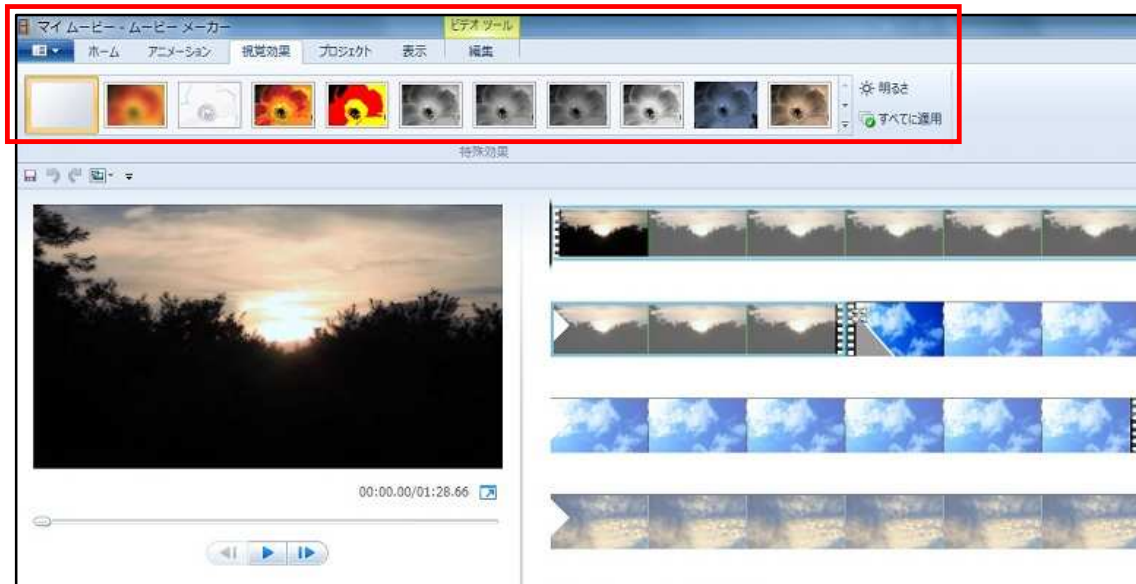
STEP - 03 動きや色の変化を加えよう

■フィルター効果とは？

フィルター効果を使うことで、クリップに時間表現やイメージ、流れを加えることができます。STEP-03ではクリップとクリップのつなぎ方を実践してみましょう。ここでは、クリップ自体に表現を付加するフィルター効果をマスターしましょう。

■色を変えてみよう

- ①効果を加えたい素材をクリックします。
- ②画面左上のメニュータブを『視覚効果』にして、一覧より好みの効果を選択します。明るさも調整することが可能です。



■動きを加えてみよう

『視覚効果』には色を変える効果だけでなく、動きを加える効果も含まれています。切り替え効果の「アニメーション」と組み合わせて、ダイナミックに加工してみましょう。

STEP - 04 タイトル／テロップを入れてみよう！

■タイトル／テロップとは？

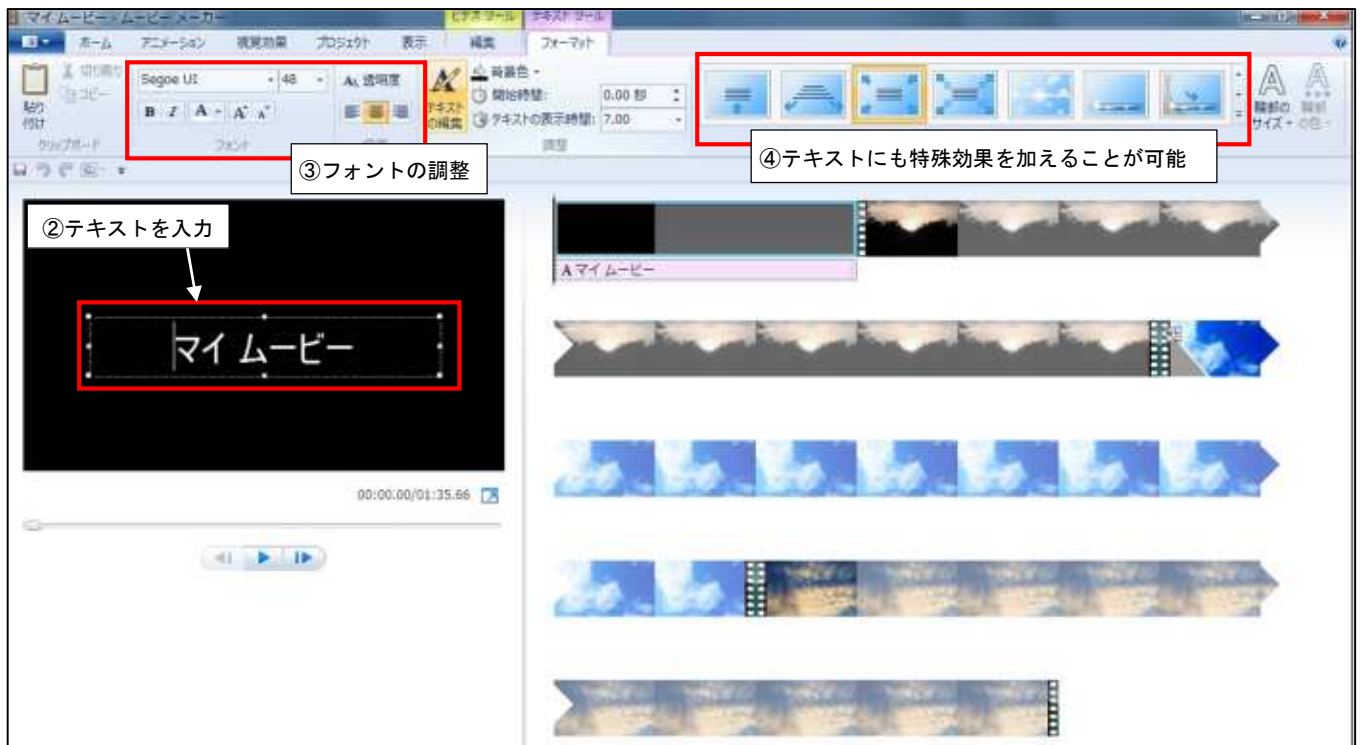
映像作品に、よりわかりやすく文字で説明を入れてみましょう。画面に対して、比較的大きく全体的に表示するものを「タイトル」、言葉や歌詞、人名等を数行で画面端に表示するものを「テロップ」や「キャプション」と呼びます。どちらも一般的には「タイトル」や「タイタラー」と呼ばれる機能を使って作成します。

■タイトルを作成してみよう

- ①メニュータブは「ホーム」にします。
最初に配置されたクリップを選択した後で、画面上部の「タイトル」をクリックすると、クリップ前にタイトルのセクションが挿入されます。



- ②表示される文字入力枠内に、テキストを入力します。
③フォントやスタイルを変更してみましょう。パソコンに登録されている様々なフォントが利用できます。
④タイトルにも特殊効果を加えることができます。作品に合う効果を加えてみましょう。



※テロップ（キャプション）やクレジットの差し込み／編集方法は「タイトル」と同様です。



■作品の各部分をチェックしよう

いよいよ完成！・・・でもその前に、もう一度、作品全体の流れを確認しておきましょう。主なチェックポイントは以下の通りです。

①クリップの繋がり方

クリップ同士が隙間なくつながっているか？切り替え効果は適切かを確認しましょう。

②音楽ファイル

音はミュートされずにきちんと鳴っているか確認しましょう。

③テロップ等のタイミング

文字の入る位置、タイミング、色は適切ですか？背景に溶け込まないように、文字サイズや場所、色等を確認しましょう。

良い例)

※濃い背景に白文字



悪い例)

※薄い背景に白い文字



■ファイルを書き出してみよう！

作品が完成したら、次はファイルを書き出してみましょう。

①書き出す前に、再度保存しましょう。

②「ファイル」→「ムービーの保存」で形式を選択します。DVDに直接書き出したり、MP4/WMVなどのデータとして書き出したりすることができます。使用方法に合わせた形式を選んで、動画を書き出してみましょう。

■動画公開時の注意事項（肖像権・著作権について）

完成した動画は、You Tube やソーシャルネットワークサービスに公開することができます。（事前のアカウント作成が必要）ただし、公開する場合は不特定多数の目に触れることとなりますので、注意が必要です。

人や著作物が映っている全ての動画・画像には、被写体について「肖像権」という権利があります。また、映像や音楽には作成者に「著作権」があり、誰でもみだりに使用してはいけません。詳しくは各動画共有サービスのガイドライン等を参照すると良いでしょう。

テレビ放送の映像や被写体の名誉を棄損するような利用、市販のCDのBGM利用等は、基本的にできません。モラルやマナーを守りつつ、作品を制作しましょう。

2016年1月5日 初版

映像作品編集の基礎知識

発行：ローランド株式会社

編集：ローランド株式会社 スクール運営グループ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-7 VORT 秋葉原ビル